コラム ～日本の健康・世界の健康～

国際保健？ グローバルヘルス？

名古屋市立大学大学院看護学研究科　国際保健看護学　教授　樋口　倫代

私は現在の職場で、看護学研究科の「国際保健看護学」という領域にいます。前職は医学系研究科の「国際保健医療学」教室でした。「国際〇〇」という名称はありがちですが、保健医療における「国際」とは何なのでしょうか？

私が「国際保健」を志し、病院の勤務医を辞して留学したのは今世紀に入る少し前でした。その後足掛け11年間、海外で大学院生活と保健活動を経験しました。（自分では「海外放浪修行期間」と呼んでいます！）もともと自分で志したとは言え、「国際保健」って一体何なんだろう？？という思いを持ち続けていました。

2009年から日本に定住し、縁あって大学で「国際保健」関連科目を教える立場になりました。それで、いろいろなテキストをあたって、「国際保健とは？」を整理してみたのですが、歴史的に3つの流れがあるのではないかと理解するようになりました。

まず1つが、「国境を超えた健康問題対策」からの発展です。ヨーロッパでは国と国が地続きです。国を超えて川も流れています。そのような状況で、コレラなどの感染症に対して1国のみで対策することは不可能でした。19世紀中頃にそのための国際会議が発足し、約半世紀にわたる長い協議を経て、感染対策のための国際協定が締結されたそうです。これを運用するための国際機関もでき、後の世界保健機関（WHO）の設立にもつながりました。最近では、新型コロナ感染症対策が1国だけではなし得なかったことは記憶に新しいと思います。また、地球温暖化の健康被害への対策なども1国では成し得ないことは想像しやすいでしょう。

もう1つには、「人道・社会正義の観点」からの発展があると考えます。やはり19世紀中頃、戦争時の国際的な救護団体の必要性を訴える赤十字運動が起こりました。このような戦時人道援助は国を超えた協調がなくては不可能です。国際的な緊急人道援助は、大災害の時にも必要とされてきました。もちろん、保健医療において人道・社会正義の観点が必要とされるのは緊急時だけではありません。健康を享受することは基本的人権である、ということは、世界的に繰り返し確認されています。そして、すべての人が健康を享受できること、すなわち健康における公正が、世界的な目標として掲げられ続けています。「すべての人に健康を」という考え方は、国際保健の要だと考えます。一方、どのような保健医療活動も人道・社会正義にのっとっているはずで、国際保健が特別というわけではないとも言えます。

国際保健には「開発援助の一部としての国際保健医療協力」という側面もあります。第二次世界大戦後、いわゆる先進国は、いわゆる発展途上国に対してさかんに開発援助をしてきました。（注：「先進国」「開発途上国」という用語は、最近はあまり使われなくなっています。）開発援助と言えば、ダムや橋、高速道路といったインフラ整備を思い浮かべやすいですが、開発途上国には、先進国の援助による保健医療プロジェクトが数多くあります。病院建設や保健医療従事者養成などが典型的です。経済発展を遂げるためにはそこでくらす人々が健康である必要があり、経済開発のためには健康な労働力、健康な購買者の維持が必要だという要素もあったと言われています。ただ、開発援助も経済開発最優先から、社会開発や人間開発を重視するようにシフトしてきています。そもそも、国際保健医療協力に携わっている人で、経済開発のための健康だと思ってやっている人は少ないでしょう。自分が関わっている地域の人びとが置かれている健康格差―例えば乳幼児死亡率が高いことなど―に問題意識を持ち、その地域の健康向上に少しでも協力したいという思いで活動していると思います。

そう考えると、特に平時の人道・社会正義の観点からの国際保健と、開発援助の一部としての国際保健医療協力の境界はあまりないのかもしれません。さらに言えば、人の健康に関わることについて、国内とか国際とか区別する必要はないように思えてきます。

さて、私も長らく所属している「日本国際保健医療学会」という、日本で国際保健にかかわる人たちの団体があります。この学会が2001年に「国際保健医療学」とは何かということについて見解を示しました。それによると、「全世界的な立場でみた場合に、健康水準、保健医療に見られる国、地域的な違いや格差が、どの程度であれば容認しがたいと考えるか、そのような違いや格差が生じたことにはどのような要因が関連しているか、さらにそれを容認できる程度まで改善するにはどのような方策があるかを研究し、解明する学問としています。

それから四半世紀近くが過ぎました。この間「国際保健」のありようや実際の活動は大きく変化したと感じます。象徴的なこととして、かつて英語では、「international health（インターナショナルヘルス）」という用語が使われてきましたが、最近目にすることが減りました。替わりに使われるようになってきたのが「global health（グローバルヘルス）」です。internationalには文字通り国と国のつながりという意味合いがあるのですが、グローバル化に伴って健康課題もglobal（地球規模）になってきていることや、昨今の健康課題は、国以外の、例えば市民社会や企業などの関わりも重要になってきたからだと言われています。前述の日本国際保健医療学会は2022年に英語名称の学会名の「国際保健医療」にあたる部分をinternational healthからglobal healthに変更し、ロゴも変わりました。ただ、2001年に示した定義は維持しています。

重要なことは、用語や呼称の問題ではなく、小さなコミュニティーであっても、地球規模であっても、また、国際的にやるかどうかでもなく、やはりめざすべきことは「すべての人に健康を」ということなのだと考えます。